

【2023年卒 就職活動TOPIC】 就職活動費用コロナ禍前と比べ約4割減。前年同水準

コロナ禍に進んだ就職活動費用の減少傾向は落ち着く。

2022年卒で減少した「交通費」「宿泊費」の大きな増減は見られず

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）のより良い就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：栗田 貴祥）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

就職活動費用減少が落ち着いた背景に、オンライン活用の普及と最終面接等の対面実施



所長 栗田 貴祥

今回は、学生が就職活動に使用した金額についてレポートします。2023年卒学生が6月12日時点で就職活動に使用した金額は、平均して7万5,245円と、コロナ禍前（2020年卒）から約4割減少しています。2022年卒と比べると、約3,000円増加しましたが、コロナ禍前よりも就職活動費用が少ない傾向が続いています。費用の減少傾向が一定の落ち着きを見せた背景には、22年卒で進んだオンライン活用の一定の普及と、最終面接を中心とした対面機会の活用が考えられます。学生の各プロセスの参加形態を見ると、説明会と一次面接はオンラインが主流で、コロナ禍を機に進んだオンラインでの活動が定着したようです。一方で、最終面接は対面で参加したケースが多く、オンライン活用が進んでも、一部のプロセスで対面の機会を設けている様子が見えます。また、2～6月中の就職活動にかけた時間の割合は、直近3カ年で比べると、いずれの月も23年卒が低い結果となりました。今後コロナ禍が収束した場合にもオンライン・対面の使い分けが続き、就職活動費用は同程度で推移するのではないかと推察します。

就職活動全体にかかった平均金額の比較

大学生_全体（就職志望者のうち就職活動に「1円」以上使用した学生/数値回答） ※大学院生除く（円）

	就職活動全体にかかった平均金額				差 (23年卒-22年卒)	
	2023年卒 (2022年6月12日時点)	2022年卒 (2021年6月12日時点)	2021年卒 (2020年6月12日時点)	2020年卒 (2019年7月1日時点)		
全国	75,245	72,034	88,923	128,890	3,211	
地域別	北海道・東北	99,048	92,245	94,468	140,861	6,803
	関東	73,343	65,193	81,833	117,374	8,150
	中部	77,305	76,508	83,776	132,900	797
	近畿	71,891	62,579	97,263	131,201	9,312
	中国・四国	59,195	101,491	116,654	139,967	-42,296
	九州	84,393	78,368	92,717	156,989	6,025

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

2022年卒で減少した「交通費」「宿泊費」は、大きな増減なし

・2023年卒の「交通費」と「宿泊費」は、2021年卒に比べ平均金額が大きく減少した2022年卒と同水準の金額だが、いずれも使用率は若干増加している。

・「交通費」の平均金額を地域別で見ると、最も高かった「北海道・東北」は、最も低かった「関東」に比べ、約1万5,000円高い。

就職活動費用の内訳

大学生_全体（平均金額：就職志望者のうち各項目で「1円」以上使用した学生 / 数値回答）※大学院生除く

（使用率：就職志望者のうち就職活動に「1円」以上使用した学生 / それぞれ単一回答）

※ 項目ごとの平均額のため、各項目の合計は総額とは一致しない

（平均金額：円 使用率：% 使用率の差：ポイント）

		交通費	被服費	宿泊費	飲食費	書籍費	公務員試験対策費	スキルアップ費用
n	2023年卒	949	857	141	493	626	123	257
	2022年卒	1,218	1,166	118	666	833	146	326
	2021年卒	699	694	112	519	475	86	224
	2020年卒	1,367	1,205	286	1,215	878	152	400
平均金額	2023年卒	17,555	33,500	13,810	5,423	4,737	136,896	22,732
	2022年卒	17,420	31,462	13,313	6,104	5,193	116,455	21,806
	2021年卒	25,567	34,360	22,467	6,957	4,913	93,204	17,398
	2020年卒	49,466	36,869	27,059	12,488	5,697	105,195	23,847
	23年卒-22年卒	135	2,038	497	-681	-456	20,441	926
使用率	2023年卒	88.1	79.6	13.1	45.8	58.2	11.4	23.9
	2022年卒	85.3	81.7	8.3	46.7	58.4	10.2	22.9
	2021年卒	89.4	88.7	14.3	66.3	60.7	11.0	28.7
	2020年卒	98.2	86.6	20.5	87.3	63.1	10.9	28.7
	23年卒-22年卒	2.8	-2.1	4.8	-0.8	-0.2	1.2	1.0

就職活動交通費の地域別平均金額

大学生_全体（平均金額：就職志望者のうち交通費で「1円」以上使用した学生 / 数値回答）※大学院生除く

（円）

		就職活動交通費の平均金額				差 (23年卒-22年卒)
		2023年卒 (2022年6月12日時点)	2022年卒 (2021年6月12日時点)	2021年卒 (2020年6月12日時点)	2020年卒 (2019年7月1日時点)	
全国		17,555	17,420	25,567	49,466	135
地域別	北海道・東北	29,036	26,951	33,843	68,624	2,085
	関東	13,696	13,818	19,784	37,157	-122
	中部	18,399	19,019	25,831	49,593	-620
	近畿	20,473	15,354	27,135	51,738	5,119
	中国・四国	19,660	29,790	39,980	70,990	-10,130
	九州	15,979	20,286	38,960	79,383	-4,307

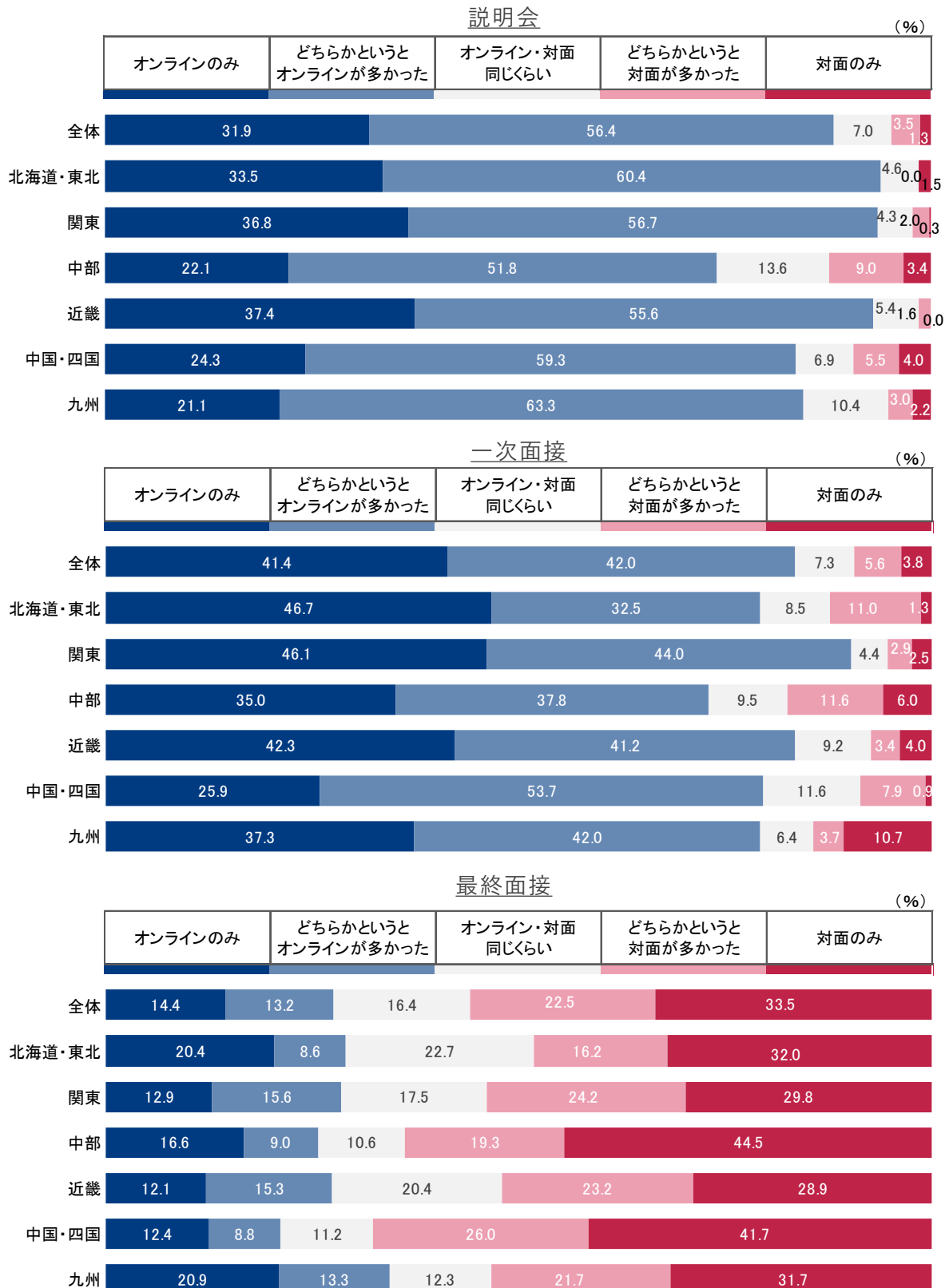
II. 各プロセスの参加形態

説明会・一次面接はオンライン参加が主流だが、最終面接は「対面のみ」が最も高い

・各プロセスの参加形態について聞いたところ、説明会と一次面接は「オンラインのみ」と「どちらかというオンラインが多かった」の合計が8割を超えた。最終面接は「対面のみ」が33.5%で最も高く、「どちらかという対面が多かった」と合わせると5割を超えた。

6月12日までに経験した参加形態

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者・各活動経験者/単一回答）※大学院生除く



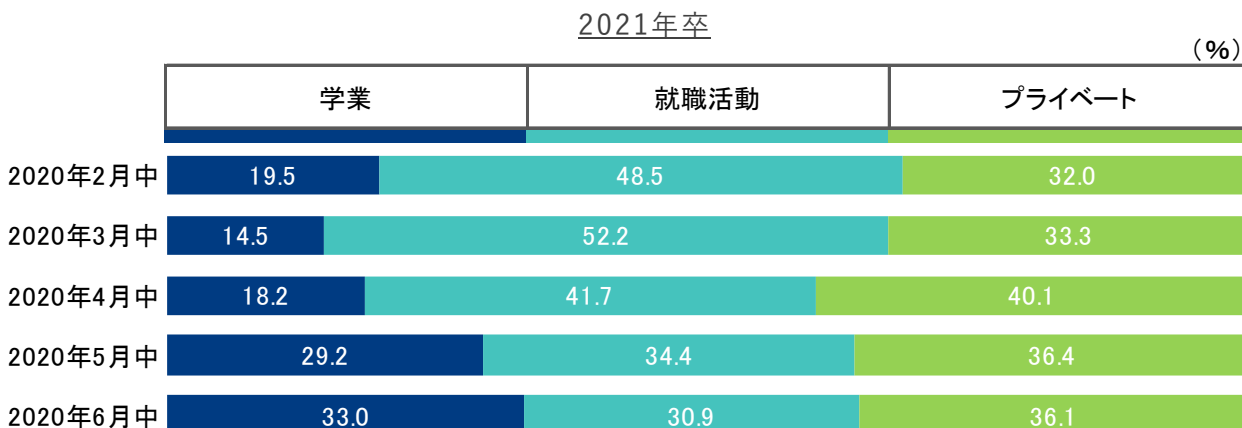
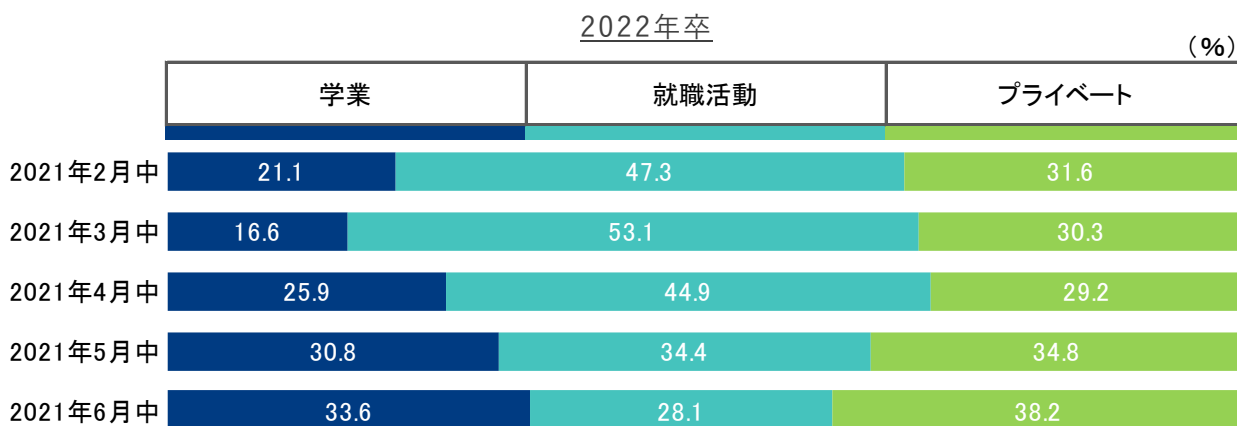
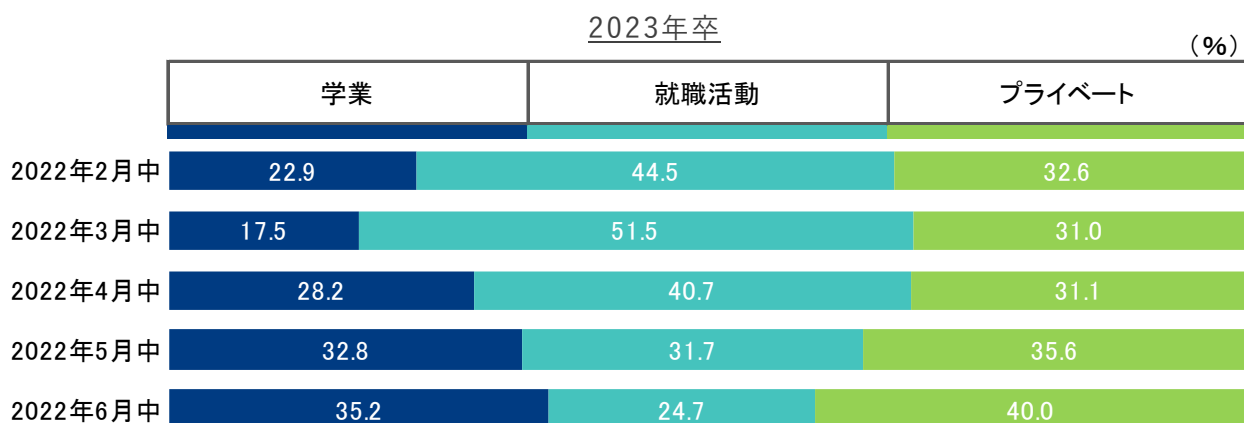
Ⅲ. 「学業」「就職活動」「プライベート」時間の割合

「就職活動」時間の割合は、いずれの月も2023年卒が低い

・各月の「学業」「就職活動」「プライベート」時間の割合を見ると、2023年卒においては、2022年卒・2021年卒と比べて、いずれの月も「学業」の割合が高く「就職活動」の割合が低くなっている。

各月の「学業」「就職活動」「プライベート」時間の割合

大学生_全体（就職志望者/数値回答） ※大学院生除く



調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法 | インターネット調査

集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2023年卒：2022年6月12日時点

調査対象 | 2023年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2023』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生7,632人（内訳：大学生6,258人/大学院生1,374人）

調査期間 | 2022年6月12日～6月17日 集計対象 | 大学生 1,358人/大学院生 443人
※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2023/>

2022年卒：2021年6月12日時点

調査対象 | 2022年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2022』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生8,736人（内訳：大学生7,261人/大学院生1,475人）

調査期間 | 2021年6月12日～6月17日 集計対象 | 大学生 1,727人/大学院生 557人

2021年卒：2020年6月12日時点

調査対象 | 2021年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2021』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生4,198人（内訳：大学生3,325人/大学院生873人）

調査期間 | 2020年6月12日～6月19日 集計対象 | 大学生 915人/大学院生 377人

2020年卒：2019年7月1日時点

調査対象 | 2020年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2020』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生6,395人（内訳：大学生5,267人/大学院生1,128人）

調査期間 | 2019年7月1日～7月8日 集計対象 | 大学生 1,584人/大学院生 503人

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況を基に、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- 「内定率」は内定・内々定を含む。政府の要請における正式な内定日は10月1日以降である
- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- 「前回差」「前年同月差」の単位は、「ポイント」
- 本資料での「前年」とは、「2022年卒」を示す

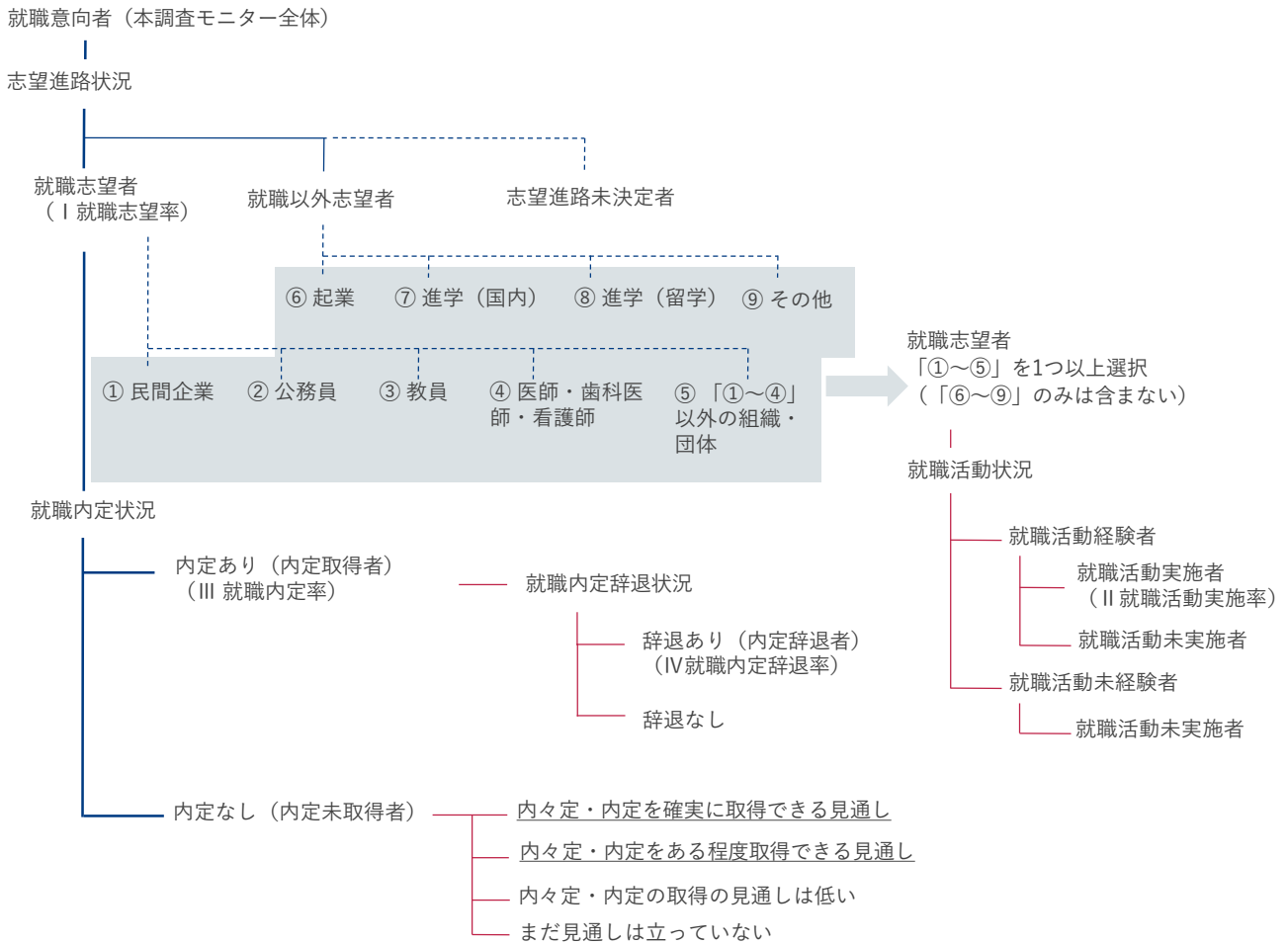
リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法>

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

- 就職意向者 = 当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
- 就職志望者 = 当月、就職を志望している者
- 就職活動実施者 = 当月、就職活動を実施している者 (※)
- 就職活動経験者 = 当月までに就職活動の経験がある者
- 就職内定取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験がある者
- 就職内定未取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
- 進路確定者 = 当月、進路が確定している者
進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
- 就職内定辞退者 = 当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

≪地域区分の内訳≫

- 関東 = 東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
- 中部 = 静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
- 近畿 = 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
- その他地域 = 「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者